

## 教育学部教員の研究活動における不正行為に関する調査結果（概要）

### 1. 調査の経緯と調査方法・手順

#### (1) 調査の経緯

平成23年6月初旬から中旬にかけて、教育学部宮田仁教授の研究業績について、盗用、共著者の同意を得ない無断投稿、重複投稿が行われているという複数の申立書が、学長宛て提出された。

学長は、「滋賀大学における研究活動の不正行為への対応に関する規程」（平成19年5月施行）にしたがって、予備調査委員会を発足させ、6月22日に予備調査委員会が開催された。学長は予備調査委員会の報告を受けて、本格的な調査を行うこととし、7月1日に不正行為調査委員会の設置を決定した。調査委員会委員の氏名と所属は下記に示すとおりである。そして、不正調査委員会による本調査を行うことを、申立者及び被申立者に通知し、双方から異議がないことを確認して、7月20日に第1回委員会を開催し、都合13回の委員会を開催した。

宮田教授の研究活動における改ざん、盗用、共著者の同意を得ない無断投稿、重複投稿の疑いに関する更なる申立書が、7月以降も複数提出された。

#### (2) 調査方法・手順

調査委員会は、入手可能な宮田教授の研究業績を取り寄せ検討し、不正行為と疑われる業績についてはそれを裏付ける資料等を取り寄せ検討を行った。そして、学内の申立者から2度の聴き取り調査を、被申立者の宮田教授には7度の聴き取り調査を行った。また学外の申立者に対しては、委員長が出向き、状況を説明し申立の趣旨と要望について聴き取り調査を行った。

なお、本学の規程では、対象とする不正行為を、捏造、改ざん、盗用に限定している。調査委員会は、この点を踏まえつつも、申立書で共著者の同意を得ない無断投稿や重複投稿についての指摘があり、共著者の同意を得ない無断投稿や重複投稿についても研究者倫理に反する行為にあたるとの認識で調査の対象とした。

### 2. 研究活動における不正行為の内容

調査委員会は調査の結果、宮田教授の研究活動における不正行為が、改ざん、盗用、共著者の同意を得ない無断投稿、重複投稿の4つの分野に及んでいることを認定した。

#### (1) 改ざんについて

本学の規程で改ざんとは、「研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること」と定義している。宮田教授のいくつかの論文では、同じ調査データ分析結果を、調査時期や調査対象が異なると偽って別の論文で用いており、これは改ざんにあたる。このような改ざんは、1995年の論

文データを、調査時期・対象が異なると記して、同じ問題を扱った 1996 年の論文に用いたのが最初である。さらに 1995 年論文のデータの一部は、2011 年の論文でも調査時期や調査対象を偽って用いられている。このような改ざんは、現在に至るまで比較的長期にわたって繰り返し行われている。これに当てはまるものは、2002 年の論文データを調査時期や調査対象を偽って、2004 年（2 編）、2005 年、2006 年の論文に用いたケース、2004 年の論文データを調査時期や調査対象を偽って、2005 年、2007 年、2008 年の論文に用いたケース、2009 年の論文データを調査時期や調査対象を偽って、2009 年の別の論文と、2010 年の論文に用いたケースである。改ざん論文は、下記の「不正行為論文リスト」が示す 11 編である。

#### (2) 盗用について

本学の規程で盗用とは、「他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を、当該研究者の了解もしくは適切な表示なく流用すること」と定義している。宮田教授の研究活動における盗用の第 1 のケースは、宮田教授の共同研究者がすでに国際学会で報告し、プロシーディングズに掲載公表済みの 2008 年の論文から、ほぼ 4 ページ分を盗用した論文を国際学術誌に投稿し、それが 2009 年に掲載されたことである。第 2 のケースは、学外他者の 2008 年の国際学会プロシーディングズ掲載論文のレビュー部分から 370 words 盗用し、2009 年のプロシーディングズ掲載論文に用いたことである。なお、重複投稿された別の 3 編の論文と 1 編の Keynote Speech にも、同じ盗用箇所がある。盗用論文は、下記の「不正行為論文リスト」が示す 6 編である。

#### (3) 共著者の同意を得ない無断投稿について

上記の改ざん論文には、共著者の同意を得ない無断投稿論文が 3 編存在し、盗用論文にも共著者の同意を得ない 3 編の無断投稿論文があった。その他、共著者の事前の同意を得ない無断投稿論文 1 編があった。

#### (4) 重複投稿について

同じ内容の論文を、同じデータを用いて、国際学会プロシーディングズや学術誌や紀要に繰り返し投稿する重複投稿は、宮田教授の研究業績には多くある。

同一内容の論文間で、加筆修正が行われ内容の発展があったり、学会大会での招待講演やショートペーパーに類するものが含まれており、どの論文が重複投稿に該当するか判断に迷うものもある。また、プロシーディングズ掲載論文と、それを基礎にした関連国際学術誌掲載論文との関係についても考慮する必要がある。同一内容であったとしても重複投稿に当てはまらないケースは、当該プロシーディングズ編集委員会と当該ジャーナル編集委員会の双方で重複投稿について合意され、論文にそのことが明記されている場合であろう。しかし複数のプロシーディングズに論文を掲載し、その後ジャーナルに掲載された場合は、論文群全体が重複投稿と見なされる。

調査委員会は、重複投稿と見なされる何編かの論文のうち、6 編の論文を重複投稿と認定した。

### 3. 研究活動における不正行為の評価

#### (1)不正行為の評価

以上のように宮田教授の研究活動における不正行為は、偶発的ではなく、改ざんに見られるように、長期にわたり繰り返し行われている。また盗用の内の1件は、共同研究者の研究成果の重要な部分を、自らがファーストオーサーである論文を国際学術誌に掲載するために無断で利用したケースである。またいくつかの共著者の同意を得ない無断投稿や重複投稿もあり、研究上の倫理に反する行為である。

#### (2)共著論文における共著者の役割

なお上記不正行為と認められる論文には、共著論文が含まれる。しかし調査の結果、共著論文の執筆はすべてファーストオーサーであり責任著者でもある宮田教授が一人で行っており、不正行為の責任は宮田教授にある。調査委員会は、共著者が不正行為に関わっているという事実は一切ないことを確認している。また一部の不正行為と認められる論文は、共著者の同意を得ていない無断投稿論文である。

#### (3)不正行為論文の学術的社会的評価

改ざん論文、盗用論文の学術的社会的影響は、当該論文の内2編が学会大会のベスト・ペーパー賞を授与されてはいるが、プロシーディングズ掲載論文が多く、また他者による当該論文の引用は、学術論文相互引用検索システムである Science Direct SCOPUS で調べたところ1件もなく、研究領域の近い限られた範囲にとどまると考えられる。

なお改ざん論文は、改ざんによって結論にそれほど本質的な影響がなかったと判断した。

#### (4)不正行為論文と研究費との関係

調査委員会は、不正行為と認定した論文と研究費との関係を調査し、研究費は研究目的及び計画に基づき使用されており、不正を前提として使用したものではなく、盗用・改ざんと直接因果関係のある支出はなかったと判断した。

### 4. 調査機関が公表までに執った措置等

調査委員会は調査報告書を取りまとめ、申立者及び被申立者に通知等の手続きを行った。

調査報告書に対して被申立者から不服申立書が提出された。調査委員会は不服申立の趣旨と内容を被申立者から再確認し、再調査の必要はないと判断した。

学長は、上記の手続きを踏まえて、下記の「不正行為論文リスト」が示す、改ざん、盗用、共著者の同意を得ない無断投稿であると調査委員会が認定した18編の論文の取り下げを、宮田教授に勧告した。そして、被盗用者、共著者等、今回の問題で被害を受けた人々に謝罪するよう求めた。

宮田教授は、調査委員会における調査に対しては、自らの不正行為を認め反省し、必要な書類等の提供に応じた。また、学長からの論文取り下げ勧告を受け入れて、論文取り下げ申請を行っている。また関係者に謝罪を行っている。

### 5. 研究活動の不正行為を防止するための措置について

本学では、従来より「滋賀大学における研究者等の行動規範」等を定め、研究活動にお

ける不正行為が行われないように取り組んできた。

大学教員は、高い研究者倫理にもとづき自由な発想で研究活動を行っているが、本事案は、被申立者である教員のモラルの欠如に起因するものである。

今回の事案が生じたことは誠に遺憾であり、今後研究活動における不正行為防止に係る全学的な対応を一層図ってゆくために、当面以下に記す方策を行う。

- ① 本学教職員に対して、研究活動における不正行為防止にかかる注意喚起通知を行う。
- ② 研修会等により、研究者が遵守すべき基本義務に関する研究倫理教育を徹底する。

#### <調査委員会の委員の氏名・所属>

- 北村 裕明 理事（教育・学術担当）副学長（学長が指名する理事・委員長）  
杉江 徹 教育学部長（被申立者が所属する部局長）  
松原 伸一 教育学部・教授（被申立者の当該研究関連分野の者）  
武村 泰宏 大阪芸術大学・教授（被申立者の当該研究関連分野の者・学外者）  
渡邊 暁彦 教育学部・准教授（法律関係の専門的知識を有する教員）  
吉川 栄治 理事（総務・企画担当）副学長（その他学長が必要と認めた者）

#### <不正行為論文リスト>

不正行為調査委員会は、下記の論文について改ざん、盗用、共著者の同意を得ない無断投稿、重複投稿があったと認定した。

学長は、重複投稿論文以外の、改ざん論文、盗用論文、共著者の同意を得ない無断投稿論文 18 編について取り下げ勧告を行った。なお、下記の重複投稿と認定した論文は、申立のあった論文に限定している。

不正行為と認定した共著論文は、ファーストオーサーであり責任著者である宮田教授がすべてを執筆しており、不正行為の責任は宮田教授にあり、共著者は不正行為に一切関与していない。

1. 改ざん論文と認定するもの（論文掲載順は、本文で記しているグループ毎である）
  - ① 宮田仁 他 「問題解決とアルゴリズムに焦点をあてたプログラミング導入教材の開発」『京都教育大学教育実践研究年報』12, 1996（共著者は不正行為に一切関与していない）
  - ② Hitoshi MIYATA et al., ‘Development of a Game-Based Mobile Tool of Solving Tower of Hanoi for Logical Thinking Skill and Meta-Cognition’, *Computers and Advanced Technology in Education (CATE2011)*（無断投稿と認定、共著者は不正行為に一切関与していない）
  - ③ Hitoshi MIYATA, ‘Improvement of Classroom Communication in Large-scale Remote Lecture Classes Utilizing a Cell Phone-compatible Comment Card System’, *International Conference on Computers in Education, The Proceeding of ICCE 2004, Australia, Association for Advancement of Computing in Education (AACE), 2004*
  - ④ 宮田仁 「携帯電話対応コメントカードシステムを活用した知識創出型遠隔講義における不正行為が行われないように取り組んできた。」

る授業コミュニケーションの活性化」, 京都大学高等教育研究開発推進センター研究紀要『京都大学高等教育研究』10, 2004

- ⑤ Hitoshi MIYATA, ‘Improvement of Classroom Communication in Large-scale Remote Lecture Classes Utilizing a Cell Phone-compatible Comment Card System’ , *Proceeding of the 8th International Conference: Computers and Advanced Technology in Education (CATE 2005)*
- ⑥ Hitoshi MIYATA, ‘Improvement of Classroom Communication in Large-scale Remote Lecture Classes Utilizing a Cell Phone-compatible Comment Card System’ , The International Association of Science and Technology for Development (IASTED), *The International Journal of Advanced Technology for Learning (ATL)*, ACTA PRESS, Anaheim USA, 2006
- ⑦ Hitoshi MIYATA, ‘Development of an e-Learning Resource for Teacher Education Utilizing a VOD-compatible Teaching Portfolio Having a Dual-screen Synchronous Playback Function’ , *Frontiers in Artificial Intelligence and Applications Vol. 133, Towards Sustainable and Scalable Educational Innovations Informed by Learning Sciences*, Ed. by C. K. Looi, D. Jonassen, & M. Ikeda, IOS Press , 2005
- ⑧ Hitoshi MIYATA , ‘Development of e-Learning Resource for Teacher Education Utilizing a VOD-compatible Teaching Portfolio’ , *International Conference on Web-Based Education, The Proceeding of WBE 2007*, Chamonix, France, The International Association of Science and Technology for Development (IASTED) , 2007
- ⑨ Hitoshi MIYATA , ‘Development of e-Learning Resource for Teacher Education Utilizing a VOD-compatible Teaching Portfolio’ , *International Journal on Advanced Technology for Learning*, 5-1, 2008
- ⑩ Hitoshi MIYATA et al., ‘Development and Evaluation of Web-based Mobile Contents for Logical Thinking by Teaching Students “How to Think” ’ , *Proceedings of the 17th International Conference on Computers in Education (ICCE2009)*. (無断投稿と認定、共著者は不正行為に一切関与していない)
- ⑪ Hitoshi MIYATA et al., ‘Development and Evaluation of Web-based Mobile Contents for Logical Thinking by Teaching Students “How to Think” ’ , *International Journal of Mobile Learning and Organization*, 4-4, 2010 (無断投稿と認定、共著者は不正行為に一切関与していない)

## 2. 盗用論文と認定するもの

- ① Hitoshi MIYATA et al., ‘ Development and Educational Practice of a Lunar Observation Support System by using Mobile Phones for Science Education ’ , *International Journal on Advances in Intelligent Systems*, vol.1-1, 2008 (無断投稿と認定、共著者は不正行為に一切関与していない)
- ② Hitoshi MIYATA et al., ‘ Development and Evaluation of the Flower Identification Database for Mobile with a Geo-tagged Picture Map ’ , *Proceedings of the 12th IASTED International*

*Conference Computers and Advanced Technology in Education (CATE 2009)* (共著者は不正行為に一切関与していない)

- ③ Hitoshi MIYATA, ‘Classroom, Ubiquitous, and Mobile Advanced Technologies to Enhance Learning’, *Proceedings of the 13th IASTED International Conference Computers and Advanced Technology in Education (CATE2010)* (Keynote Speech)
- ④ Hitoshi MIYATA et al., ‘Development and Evaluation of the Flower Identification Database for Mobile with a Geo-tagged Picture Map’, *Proceedings of the Asia-Pacific Conference on Technology Enhanced Learning 2010 (APTEL 2010)* (無断投稿、重複投稿論文と認定、共著者は不正行為に一切関与していない)
- ⑤ Hitoshi MIYATA et al., ‘Development and Evaluation of the Flower Identification Database for Mobile with a Geo-tagged Picture Map’, *Proceedings of the 18th International Conference on Computers in Education (ICCE2010)* (無断投稿、重複投稿論文と認定、共著者は不正行為に一切関与していない)
- ⑥ Hitoshi MIYATA et al., ‘Development and Evaluation of the Flower Identification Database for Mobile with a Geo-tagged Picture Map’, *International Journal of Mobile Learning and Organization, Vol.5, No.2, 2011 (IJMLO2011)* (重複投稿論文と認定、共著者は不正行為に一切関与していない)

3. 共著者の同意を得ない無断投稿論文と認定するもの

- ① Hitoshi MIYATA et al., ‘Development and Evaluation of a Lunar Observation Support System for Mobile Phones’, *The Proceeding of International Conference on Mobile Ubiquitous Computing, Systems, Services and Technologies (UBICOMM2007)*, International Academy, Research and Industrial Association (IARIA), 2007 (重複投稿論文と認定、共著者は不正行為に一切関与していない)

4. 以上のほか重複投稿論文と認定するもの

- ① Hitoshi MIYATA, ‘Evaluation of a Classroom Teaching Improvement Support System Using a Web-Based Teaching Portfolio with Video-On-Demand’, *International Conference on Computers and Advanced Technology in Education, The Proceeding of CATE 2004*, Hawaii, USA, The International Association of Science and Technology for Development (IASTED)
- ② Hitoshi MIYATA, ‘A Study of Developing Reflective Practices for Preservice Teachers through a Web-based Electronic Teaching Portfolio and Video-on-demand Assessment Program’, *International Conference on Computers in Education, The Proceeding of ICCE 2002*, New Zealand, Association for Advancement of Computing in Education (AACE)